

## 分担研究報告書

### 油症認定患者追跡調査

研究分担者 小野塚 大介 国立循環器病研究センター 疫学研究推進室長  
研究協力者 中村 優子 九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター 看護師  
川上 義仁 九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター テクニカルスタッフ  
辻 学 九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター 准教授  
古江 増隆 九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野 教授

**研究要旨** 油症認定患者の生存情報および死亡情報をアップデートし、死亡リスクの再評価を行うことを目的として、油症認定患者を対象とした50年間の追跡調査を実施した。その結果、追跡対象者1,664名のうち、2017年12月31日時点で生存の確認ができた患者が922名(55.4%)、死亡の確認ができた患者が640名(38.5%)、生死不明の者が102名(6.1%)であった。なお、追跡調査はさらに継続中である。

#### A. 研究目的

我々はこれまで、油症認定患者を対象とした40年間の追跡調査を実施し、男性の油症患者では全がん、肺がん、肝がんの死亡リスクが一般人より高いことを報告した(Onozuka et al., Am J Epidemiol, 2009)。しかし、その後の追跡調査の結果についてはこれまでに報告されていない。

油症認定患者の予後と死因を長期的に追跡調査し、各種疾病による死亡リスクを評価することは、人体におけるダイオキシン類の長期健康影響を明らかにする上で非常に重要である。

そこで本研究は、追跡期間を50年間に延長し、油症認定患者における死亡リスクを再評価することを目的として実施した。

#### B. 研究方法

前回の追跡調査の対象者1,664名について、油症認定患者の名簿記録をもとに、それぞれの住所地の各市区町村に対して住民票抄本および戸籍の附票(いずれも除票含む)の交付を依頼した。また、行政機関、油症センター、油症相談員等の関係者

から情報収集を行い、生存情報のアップデートを行った。

死亡者の死因については、これまでの調査で死因が不明であった油症認定患者について、油症認定患者の名簿記録と人口動態調査(基幹統計調査)の死亡票との照合による死因の特定を行う必要があることから、当該死亡票の使用について、厚生労働省政策統括官付参事官付審査解析室に申請を行った。

(倫理面への配慮)

本研究は、九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会「カネミ油症の実態調査」(許可番号30-384)の審査を経て実施した。

#### C. 研究結果

追跡対象者1,664名のうち、2017年12月31日時点の生存が確認できた者が922名(55.4%)、死亡の確認ができた者が640名(38.5%)、生死不明の者が102名(6.1%)であった。ただし、これらの情報のすべてが、住民票抄本等の公文書によって確認で

きたものではないことから、暫定的な数値である。

#### D. 考察

今回、住民票抄本等による公的情報をはじめ、行政機関、油症センター、油症相談員等の関係者に対する調査を実施し、油症認定患者の追跡情報を最新のものにアップデートした。しかし、公的情報による確認が一部できていないことや、生死不明の者が102名(6.1%)いることから、今後も追跡調査を継続する予定である

また、死因の特定に必要な人口動態調査(基幹統計調査)の死亡票の使用については、厚生労働省審査解析室及び調査担当室において現在審査中である。今後、死亡票の使用が許可された場合は、今までに死因の特定がなされていなかった死亡患者について、死亡票と照合させることで死因の特定を行うとともに、主要死因別の死亡リスクの解析を行う予定である。

#### E. 結論

油症認定患者の追跡調査を実施した結果、追跡対象者1,664名のうち、2017年12月31日時点の生存が確認できた者が922名(55.4%)、死亡の確認ができた者が640名(38.5%)、生死不明の者が102名(6.1%)であった。

今後、公的情報等による追跡調査をさらに継続するとともに、主要死因別の死亡リスクの解析を進めていく予定である。

(謝辞)

本研究の実施にあたり、九州大学病院油症ダイオキシシン研究診療センターの勝野裕子氏、九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野の梶嶋啓子氏、油症相談員の只熊幸代氏と山根美喜子氏に多大なるご協力をいただきましたことを深く感謝いたします。

#### F. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし